



やさしい大おとこ

スロボドキン作 こみやゆう訳 とく ましよてん 徳間書店

ひとりぼっちでくらしている大おとこは、友だちがほしいとおもっていましたが、村人はこわがって、耳をふさいでしまいます。大おとこの声が大きすぎるのです。耳をふさいでいるのをいいことに、わるいまほう使いは、たくさん食べものをみんなからあつめ、こまらせていました。ところが、くつやのまごむすめは、ぐうぜん、大おとこがやさしいことを知りました。

次に大おとこが村にやってきたとき、かのじよはまどをあけはなち、にっこりほほえみかけました。

